

# 横浜女性フォーラム

神奈川県横浜市

## 様々な分野の実践的なプログラムと、総合館としての各種機能を連携させた支援で成果

横浜女性フォーラムは、横浜市が（財）横浜市女性協会に管理・運営を委託している男女共同参画推進の拠点施設です。主な事業は、1.男女共同参画関連図書・資料の収集・提供やパソコン講座開催などの「情報交流事業」、2.「心とからだと生き方の総合相談」「性別による差別等の相談」の2つの相談窓口を持つ「男女共同参画相談センター事業」、3.再就職講座を始めとする就業支援、心とからだの健康支援、男女の生活自立支援、市民活動との協働など、多数の講座を企画・実施する「共同参画形成事業」などです。

開館以来、15年の実績を持つ女性のための職業計画プログラム「再就職講座ルトラヴァイエ」の修了者は939名に上っています。平成15年9月に実施した修了者の追跡調査では、回答者の就業率は75%。現在は働いていないが過去に働いた経験がある人をあわせると、87%の人がなんらかの職業についてたことになり、大きな成果を上げていることがわかります。

## 「再就職講座ルトラヴァイエ」のキーワードは、 自分を知る、社会を知る、 自分で決める

この講座が目指すのは、一人ひとりの女性が本来持っている力に自分自身で気づき、自己肯定感を高めることです。

講座のなかで、不安や悩みを語りあえる仲間を得られることも大きな支えとなります。そして、自分の内面を整理し、目標設定をすることで、無理のないところからスタートし、着実にステップアップをすることができるのです。講座は1コース11日間の基本プログラムと、オプションの7日間のパソコン講座で、年に



本・ビデオ・ミニコミなどが閲覧できる情報ライブラリ。横浜市女性協会のホームページとライブラリの所蔵資料が閲覧できる端末を設置



女性が家庭や職場で直面するさまざまな困難や、女性に対する暴力などの相談を受ける、総合相談室

2コース開催。パートなど何らかの就労はしているが、さらにステップアップしたいという女性を対象にした短期講座も実施していく予定です。

就業支援とあわせて生活上の問題解決をバックアップしているのが、総合相談です。精神的自立、経済的自立のために、相互の連携は欠かせません。また、心身のリラクゼーションのためにフィットネスルームを活用したり、情報ライブラリで必要な知識や情報を得るなど、横浜女性フォーラムでは総合的な支援体制が整えられており、必要に応じて活用できることが特徴です。

横浜女性フォーラムを運営する横浜市女性協会事業課長の岩船弘美さん。ルトラヴァイエを始めとする就業支援事業、自己確立事業、心とからだ健康事業など、さまざまな講座の企画運営に携わっている



フォーラムの講座に参加したり、施設を利用する方の子どもを予約制で預かる「子どもの部屋」



緑が多くやさしい印象の横浜女性フォーラム

### ●施設概要

1階には受付カウンター、情報ライブラリ、総合相談室、子どもの部屋など、2階には生活工房、多目的スタジオ、セミナールームのほか音楽室など、3階にはフィットネスルーム、健康サロンなどがある。庭ではお弁当を食べる親子連れの姿も。

### ●事業例

「情報交流事業」、「男女共同参画相談センター事業」、「共同参画形成事業」を柱に、多岐にわたる事業を展開する。市民活動との連携、協働も盛ん。

### ●住所&交通アクセス

神奈川県横浜市戸塚区  
上倉田町435-1  
JR・横浜市営地下鉄戸塚駅下車、西口より徒歩7分

### ●問い合わせ

電話 045-862-5050(代)



## 自分たちの職場は、自分たちで作っていこう。 そんな意識改革から、新しい動きが生まれた

NPO法人・Yokohamaこども応援団 代表  
若井光子 さん 神奈川県横浜市

### 若井さんがNPO法人を設立するまで

子育てが一段落し「何かを始めたい」と思っていた時期に、(財)横浜市女性協会がフォーラム内の“子どもの部屋”の保育者を募集しているのを知り、スタッフに加わる。

平成13年、“子どもの部屋”の運営委託先が変わり、職場を失う。解雇された保育スタッフたちと一緒に「自分たちの職場は自分たちで作ろう」と考え、出張保育グループを結成。

平成15年、“子どもの部屋”の委託先を再び募集していると聞き、応募。経験が認められ、事業を受託することに。

同年、以前(財)横浜市女性協会の起業創業講座を受講した経験を持つ若井さんが中心となってNPO法人を設立。

### 職場を失った仲間と、 出張保育のグループを結成

横浜女性フォーラム、フォーラムよこはまで開催される講座やイベント時の保育受託事業ほか、出張保育、講師派遣、子育て支援事業などを行っているのが“Yokohamaこども応援団”です。代表を務める若井さんは、NPO法人を設立する以前にも、フォーラム内にある“子どもの部屋”の保育者として働いていた時期があります。

「もともとは、(財)横浜市女性協会の保育スタッフとして仕事をしていたのですが、平成11年に子どもの部屋の運営が民間委託となり、平成13年、委託先が変更になったのに伴い、当時のスタッフは全員解雇ということになりました。でも、保育の仕事をしていきたいという気持ちがどうしても捨てきれなくて…。4人の有志が集まって、出張保育のグループを結成することになったんです」

解雇を機に、大きな保育園を作るのは無理だが、身近な保育の手伝いなら自分たちにもできるはず。自分たちの職場を自分たちで作るという考え方もあるのではという意識を持つようになったことも、グループ結成の動機になったといいます。

### 実績が認められて 再び元の仕事を委託されることに

試しにチラシを作って配ってみたところ、すぐに近隣の母親たちからの定例会時の保育依頼が舞い込み、その後、依頼件数は口コミで徐々に増えていきました。

「それから2年後の平成15年に、(財)横浜市女性協会が“子どもの部屋”の委託先を再び募集するという話があり、コンペに企画書を提出したところ事業を任せられることになりました。前に同じ仕事をやっていたため、経験やノウハウの蓄積があったという点も私たちが選ばれた理由だったのでしょうか。受託が決まったのを機に、社会的な責任を負うという決意の意味もあって、NPO法人を立ち上げることになりました」

ちなみに現在のスタッフは16名(半数は有資格者)。スタッフは特別に公募したわけではないが、仲間のネットワークで自然に集まってきたそうです。

今の仕事は(財)横浜市女性協会からの受託事業が8割、以前から続けてきた出張保育が2割。受託事業は一時保育のほか、母子が集まる、コミュニケーションの場としての“子育てひろば”や、“親子遊びの会”なども行っています。

「横浜エリアには、転勤などで移り住んできた人も多く、近所に子育てについて相談できる仲間がいないという主婦も多いんです。そんな人が“子育てひろば”に一人で参加して、帰りにはお互い電話番号を交換しているのを見ると、こういう場は必要とされているんだなあ、と改めて感じて嬉しくなるんです」

### 託児ではなく保育が基本、 単に預かるだけでは意味がない

現在はNPO法人代表という肩書きを持つ若井さんですが、今も相変わらず、エプロン姿でおもちゃを抱えて現場に出かけています。「管理する側にまわるのは好きじゃないんです。現場に出られないのなら仕事は辞めているかも」と。

「子育て支援というと、親側を支援するもののようにも思われがちですが、子どもの側にも立ってあげるのが、こども応援団のポリシー。一時預かりの託児所には絶対にしたくない。保育、つまりお母さん、お父さんと一緒に子どもを育てていくというのが理想なんです。肩書きは代表ってことになっていますが、今の会があるのもスキルを持った仲間にも恵まれたおかげ。なにをやるにも一人じゃできない。人とのネットワークを大切にしながら、お母さん、お父さん、子ども、スタッフが一緒に成長していけたらいいですね」



横浜女性フォーラム(戸塚区)とフォーラムよこはま(みなとみらい)の中にある“子どもの部屋”が主な活動の場



ダンボールを使ったスタッフ手製のおもちゃに、子どもたちも大喜び。受託事業のほか、出張保育なども継続して行われている